

暴挙

厳しく糾弾

北朝鮮がミサイル発射

新型「火星15」「米本土を攻撃可能」

北朝鮮は11月29日、同国西部の平城から日本海に向けて弾道ミサイル1発を発射しました。これについて日本共産党の志位和夫委員長は同日、「暴挙を厳しく糾弾し、抗議する」とともに「危機打開のための直接対話は急務」との談話を発表しました。

北朝鮮の国営朝鮮中央テレビは「新たに開発した大陸間弾道ミサイル(ICBM)『火星15』の試験発射に成功した」とし、「米本土を攻撃可能」と発表しました。

北朝鮮の弾道ミサイル発射は9月15日以来。度重なる核実験や弾道ミサイル発射で、国際社会からの非難の高まりと孤立の深まりは避けられません。

防衛省によると、飛行時間は約53分で約1000キロ飛行しました。一方、朝鮮中央テレビは「火星15」の最高高度は4475キロ、飛行距離は950キロで「米本土全域を攻撃できる」「超大型の重量級核弾頭を搭載可能」と主張しました。

米国は今月、北朝鮮を「テロ支援国家」に再指定するなど、圧力は強まっていました。し



かし朝鮮中央テレビは、「アメリカなどによるさまざまな圧迫にもかかわらず、発射に成功したことは朝鮮人民の勝利だ」と表明。「圧力」をはねのけてでも、米本土を攻撃可能な核兵器や弾道ミサイルを獲得する姿勢を鮮明にしました。

危機打開へ 直接対話いよいよ急務

日本共産党・志位委員長の談話では、北朝鮮の暴挙を糾弾・抗議するとともに、「甚大な犠牲と破壊をもたらす戦争は絶対に回避しなければならない」と指摘。①北朝鮮には、これ以上の軍事的挑発の中止を②関係国には、緊張を激化させる軍事的行動の自制を求めています。

そして、危機打開のために求めてきた米朝両国の直接対話が「いよいよ急務」とし、「国際社会が一致結束して、経済制裁強化と一体に『対話による平和的解決』に取り組むことが、北朝鮮問題を解決

する唯一の方策である」と強調しています。

この点で、米国の現・元の国防長官が「外交的選択肢は…引き続き可能」「外交の不在や見境のない発言は…非常に壊滅的な核戦争に突入する条件を醸成してしまいます」とのべていることを挙げ、外交的解決を強調しています。

談話では日本政府に対し「『対話否定』『軍事力行使容認』の立場を改め、対話と交渉による解決のために外交的努力をはかることを強く要請する」とのべています。

近畿民報

2017年12月1号(第307号)
発行/日本共産党国会議員団
近畿ブロック事務所

〒537-0025
大阪市東成区中道1-10-10ホクシンピース102号
Tel.06(6975)9111 Fax.06(6975)9115
Eメール:jcpkinki@cronos.ocn.ne.jp

日本共産党

*日本共産党は以上の見解を発表しました。